

## 令和2年度 第1回 学校運営協議会記録

日時：令和2年7月20日（月）15：50～17：20

場所：校長室

出席者：友谷委員、西田委員、速水委員、川上委員、西川委員、真鍋委員  
佐々木校長、坂口教頭、轟事務長、今田首席、村上首席、住友指導教諭、  
上田進路指導主事

### 1 校長挨拶

#### 2 委員の確認・自己紹介

#### 3 会長選出

友谷知己 関西大学教授が選出された。

#### 4 会長挨拶

#### 5 委嘱状授与

〈 配布資料の確認 〉

### 6 学校運営協議会について（坂口教頭から説明）

学校運営協議会実施要項、保護者からの意見書の取り扱いについての説明。  
保護者からの意見書については、1学年保護者に周知する予定。

### 7 令和2年度学校教育計画について（佐々木校長から説明）

- ・ベースとして「めざす学校像」は前年度のものを継承し、「生徒を伸ばす学校」であるために「生徒を伸ばす教員」と「それを支える学校」でもありたい。
- ・漢字検定については今年度より校内実施を行わないこととした。校外受験者のサポートについては今後行う。
- ・新教育課程の編成に取り組んでいる。観点別評価は高等学校では令和4年度からの実施であるが、小学校や中学校より遅れていると認識している。
- ・本校の教育力の向上に関する項目として2点を取り上げたい。
  - ①山田 BT の充実。ただ、宿題を課すことによる学習時間の確保ではなく、自主的な学びを促すことに視点を移していきたい。
  - ②今年度も SDGs をテーマとする「総合的な探究の時間」を推進する。講演の回数などの数値目標ばかりでなく、内容を充実させたい。
- ・進路目標に関しても合格者の数値に固執せず、個々の生徒の進路希望の実現率に視点を移したい。
- ・オーストラリアの姉妹校との交流については新型コロナウイルスの影響で今年度はホームステイ受け入れができなくなったのが残念である。
- ・学力の充実とともに、人間的な成長を促すよう、学校行事についても可能な形で実施をしたい。そのことで生徒のモチベーションを高めたい。
- ・学校広報については、WEB ページを活用して情報提供を行っている。

(住友指導教諭より補足)

今年度の図書館利用状況と漢字検定校内実施廃止についての経緯説明

## 8 学校の状況について

### (1) 今年度の行事予定 (坂口教頭より説明)

- ・一学期の考査は1回のみ実施。考査を欠席した3年生については個々の生徒のこれまでの取り組みに基づいて成績算出をする。
- ・体育祭は9月16日に実施予定。残暑の厳しい時期ではあるが、他の行事とのバランスから実施することとした。ただし、競技は行わず、「レッツダンス」(団ごとの応援披露)のみの実施とする。観覧については3年生の保護者(各家庭1名)のみに制限する。
- ・文化祭については10月30日の1日開催とする。一般公開は行わず、3年生は、受験の時期であることにも配慮し、クラス参加は行わず、有志での参加とする。保護者の観覧については検討中。
- ・修学旅行については11月に台湾3泊4日の予定だったが、1月に沖縄本島2泊3日に変更。

(村上首席より補足)

- ・学年ごとの企画選定から、学校として委員会を組織して、原則3年間同じ方面・内容ですることとして、施設・移動手段の確保、内容の充実を図っている。昨年、初めての台湾修学旅行を実施したが、新型コロナウイルスの影響により、変更を余儀なくされた。
- ・現2年生は2泊3日で沖縄本島、現1年生は3泊4日で石垣島に変更を予定。再来年についても、国内で実施を検討中。研修を兼ねた形態など斬新な企画を模索している。10月中には方向性を定めたい。
- ・学校見学会は、府立学校フェアなど校外での合同説明会が中止となり、WEBでの開催となった。例年10月と11月に実施している学校見学会は現状では参加人数を制限せざるを得ない。11月と12月に追加で学校説明会の実施を予定している。例年の4回実施を8回実施にする予定。

### (2) 「総合的な探究の時間」について (今田首席より説明)

- ・昨年度より「総合的な学習の時間」が、「総合的な探究の時間」となり、生徒自らが課題を見出し、探究活動を行うこととしている。前校長が提案したSDGsを柱として展開して、本年度で2年目になる。
- ・1年生は1人2分間の口頭発表を行っている。昨年度は30秒程度しか話せない生徒も多かったが、今年度は1分30秒~2分をしっかりと話せる生徒も少なくない。
- ・昨年同様、和歌山大学の岡崎教授に基調講演をお願いし、今後はJICAにもお願いする予定。
- ・2年生は各クラス8班に分かれて、昨年の講演内容に基づいてさらに探究を深めるため「探究マップ」(自らの設定した課題についての解決法を探る)を作らせている。自分で問題設定をすることはなかなか難しいので

現在、「食品ロス」をテーマとして設定し、調べさせている。

- ・来年度の3年生の探究活動については、今年度中に取り組みの内容を決定する。
- ・2年間の学びを論文としてまとめさせる予定。できれば、その中からの提言を英訳して国連へ届けるという目標もある。

### (3) 生徒指導について（今田首席より）

- ・遅刻総数 経年比較表に基づいて説明

反省文指導・考査ごとに累計5回の遅刻者に対する早朝登校指導を柱として遅刻指導を実施。過去に年間3学年総計8000件という頃もあったが、現在では年間3学年総計1500回程度。さらに減らしている。

- ・自転車通学について、近隣から寄せられた苦情にも対応しつつ、「自転車通信」を発行して、生徒に啓発を行いながら、教員による登下校の指導も実施している。昨年度よりPTA役員の方々にもご協力をいただいております、今年度は役員以外の保護者の方々からも協力の申し出をいただいております。

### (4) 進路指導（上田進路指導主事より）

- ・今春の進路状況について

ここ数年の大学の入学定員厳格化の影響で、安全志向は続いているが、今春は超安全志向といえるのではないかと。センター試験から共通テストへの移行も影響している。就職は3名、うち公務員2名（市役所1名・警察1名）、民間企業は1名（鉄道関係）概ね健闘しているといえる。

4年制大学はAO入試16名、指定校推薦73名、公募制推薦79名、一般入試141名と概ね健闘している。公募推薦よりも一般入試で勝負する傾向。国公立大学は6名。短大15名であった。短大に関しては4年制への編入を意識して選んでいるようだ。専門学校進学者は例年通り。看護・医療系は大学へ移行しつつあり、看護系大学進学者は健闘している。再受験は例年10%程度だが、今年度は6%だった。薬学系も例年並み。

### (5) オンライン授業について（坂口教頭より説明）

- ・休業期間中から一部の教員がZOOMやYoutubeで試行を始めた。生徒のネット環境の調査を行い、教員研修によりオンライン授業実施のスキルを身に着けた。
- ・6月の試行期間に全ての生徒のオンライン授業視聴を確認した。端末を所有していない生徒もいるが、学校からの貸出などを行い、オンライン授業の実施体制は整っている。
- ・教育庁が全校に導入したG Suite for Educationは本校教員がいち早く注目して、早期導入の準備をしていた。
- ・さらに今後の状況の変化にも対応しうる体制の構築を進めている。

## 9 質疑応答・意見交換

委員：今のイレギュラーな状況に十分対応していただいていると思う。保護者とし

ても可能な限り教育活動に協力したい。

委員：前校長が提案された SDGs の取り組みを継続していることは良いことだ。先日、今春の卒業生と交えて同窓会の幹事会を開催した。愛校心の強い卒業生が多く心強い。昨年 11 月にキャリア教育講演会で自分が話したことを覚えていてくれて、ホームページを見てくれたり、質問してくれたりしてうれしかった。今後も同窓会としても母校の教育活動に協力したい。新型コロナウイルス対策として、同窓会としてできることがあれば協力したい。

委員：「総合的な探究の時間」の今後の目標として、「国連に提言を送る」ということだが、かなり難しいと思うが、英語科教員の協力体制や生徒のモチベーションはどんなものか。

事務局：あくまでも目標であり、できることなら実現させたいと思っている。論文については英語科の全面的な協力を得て、せめて抜粋したものやまとめたものを英訳して 3 年間の成果物としたい。個々の生徒の力量にも差があるので具体的な計画は今後 1 年かけて十分に検討する。

委員：オンライン授業について、使用する機器は PC の方が望ましいと思うが、全ての生徒が所有しているわけではないと思う。スマートフォンではできることが制限されるのではないか。

事務局：スマートフォンでもある程度は可能である。教員が提示した課題への生徒からの提出は長文のやりとりではなく、一問一答やアンケート形式などをスマートフォンでも可能な形式をとっている。

委員：修学旅行、オンライン授業など参考になることが多い。中学校でも 6 月 15 日以降少しずつ通常に近づいているが、音楽や体育などの授業は様々な制限の中でいろいろ工夫しながら実践している。中学校でもマイクロソフトのシステムが導入されているが双方向とまではいかない。修学旅行の時期や場所、学校行事の開催方法も学校規模から学年規模への見直しが必要だと考えている。

委員：小学校でも行事については見直しが必要となっている。学年別の体育参観などを考えているが、海洋体験は実施できない。11 月初めの修学旅行もこの夏に下見をして検討する。小学校では学習指導要領に基づいてアクティブ・ラーニングを始めようとした矢先のコロナ禍で教員もいろいろな工夫を余儀なくされている。小学校では問題解決学習が 10 年前から始まっている。教員がかなり道筋を立てながら実施している。小学校で問題解決学習の入り口から入り、高校ではどのような出口となるのかが興味深いと思う。

委員：オンライン授業などの工夫に加え、自転車通学の指導や遅刻の指導までよくやっていただいているのは地域住民としてもよく知っている。

事務局：行政職から見ても山田高校の生徒は全体的に良い生徒ばかり。ゴミ捨ても進んで行ってくれる。

委員：100年に1度の人類未経験の災いの中で大変でしょうが、先生方には生徒のご指導を宜しくお願いします。協議会でも今後もいろいろ考えていきたい。

#### 10 諸連絡（坂口教頭より）

##### （1）令和3年度使用教科用図書選定報告

委員の皆さんに各教科の選定教科書一覧と選定理由書を提示した。

##### （2）次回（第2回）の日程：11月中旬を予定（昨年11/18（月））